

新国立競技場のシステム等関連整備に関する検討委員会（第7回）
議事概要

- 開催日時 平成30年5月24日（木）13:20～15:30
- 開催場所 日本スポーツ振興センター（JSC）本部事務所 A棟3階 大会議室2
- 出席者 山内委員長、前田委員長代理、清須美委員、上代委員、間野委員
- 議事概要

(1) システム等関連整備の進捗状況について

事務局より、資料1により、調達済みのシステム等関連設備・機器について受託事業者及び契約金額の報告、資料2により、発注したシステムの導入工事監理業務の検討の経緯・役割について報告を行い、意見交換が行われた。

委員からの意見を踏まえ、各システムについて監理業務受託事業者とともに問題なく設置できるよう取り進めていくこととされた。

引き続き、事務局より今後調達予定のシステム概要の説明を行い、意見交換が行われた。

委員からの意見を踏まえ、調達内容を確定し、スケジュールに間に合うように調達を取り進めていくこととされた。具体的な調達内容については委員長に一任された。

(主な意見)

○調達済のシステム等関連設備・機器について

- ・ 品質や人件費が確保された契約内容となっていることを確認した。
- ・ 今後、業務を取り進めるに当たり、施設の運用を踏まえた詳細設計等を進めること。
- ・ システムが本体工事の竣工に影響のないように設置できるよう、よろしく願いたい。

○案内等表示用コンテンツの内容について

- ・ 総合評価落札方式においてプレゼンテーションを行う場合、プレゼンテーションを行う人の経験値と、実際の実務者の経験値についてもしっかり確認することが必要。
- ・ 公共施設の中で、駅などある程度の人数をコントロールしているような施設のコンテンツ作成の経験のある事業者が前提となる。参加資格として、競技場、空港、駅などの大規模な公共施設における経験を求めているかどうか。
- ・ 施設が稼働してから、修正などの対応が必要となることも考えておく必要があるのではないか。
- ・ ユニバーサルデザインに十分留意して対応することが重要。
- ・ スマホのアプリなどによるソフト面でのフォローもあると良いのではないか。
- ・ 音による情報の文字化というのは良いと考えるが、コスト面と効果について検討が必要。
- ・ 表示言語については、公共施設であると考えた場合、4か国語（日、英、中、韓）が必要。
- ・ AIなどの活用の検討により、多言語対応が可能となる。
- ・ 多言語対応の表示方法については、分割表示や表示時間をずらすなど検討が必要であり、提案を求めているかどうか。

(2) 新国立競技場における什器・備品について

事務局より、新国立競技場におけるホスピタリティエリアの什器の現在の調整状況について報告を行った。

引き続き、資料4により、什器・備品の納入時期及び調達方法について、一部変更し、レイアウト、数量、調達物品については、変更が想定される旨説明を行い、意見交換が行われた。

原案の内容を基に最終的な調達内容を決定し、調達手続を進めていくこととされた。

(主な意見)

○ホスピタリティエリアの什器・備品の考え方について

- ・ ホスピタリティエリアの什器・備品の選定においては、内装デザインと一体的に考える必要があるため、本体工事設計者の設計思想を十分に反映する必要がある。

以上